

.....  
**本会記事**  
.....

## 新年を迎えて

新年明けましておめでとうございます。

2019年の新春を迎え、会員の皆様にはすこやかに過ごしのこととお慶び申し上げます。

昨年は、一年を表す今年の漢字「災」にも表されたように日本中が天変地異に見舞われた1年でした。4月島根県西部地震、7月大阪北部地震、そして9月北海道地震、また、6月西日本を襲った豪雨災害、9月平成最強と言われた台風21号と挙げればきりがなほどの自然災害が起きました。台風21号によって会議を中止せざるを得なかったこと、またWorldPM2018出席に際し、台風後閉鎖されていた関西国際空港から無事に飛び立てたと思ったのも束の間、帰国便にキャンセルが出て、帰国便の手配に四苦八苦したことなど私も多少煽りを受けました。まだまだ傷の癒えないところが沢山ありますが、少しずつ復興することを祈念しております。

当協会における昨年1年は、一昨年の60周年記念事業のような大きな行事はございませんでしたが、新たな展開をするための準備期間の1年でありました。会員の方からもご要望を頂き、当協会のホームページのリニューアルを計画し、10月に完成することができました。現在のネット社会においてデジタルな情報発信は欠かせません。維持会員各社より資料を提供頂き、明るく動きのあるホームページに一新できたと思っています。まずは、情報発信の場を整えることができましたので、次はこの場を使っての情報発信です。

2019年は、平成から新たな元号に替わる新しい年です。協会も新しい取り組みを発信していきたいと思えます。昨年まで26回にわたり開催をしておりました新粉末冶金入門講座を本年よりパワーアップし、「粉末冶金講座」を3つの講座に分けて開催します。昨年まで開催の入門講座は、「入門」と名がつくが少し難しい、もっと易しい内容で、との声を頂いておりました。そういったご意見を踏まえ、まずは7月に粉末冶金に初めて接するような方にも分かり易い内容で「粉末冶金入門講座」を行います。そして、11月末に入門講座を少し具体的な内容で解説頂く「粉末冶金基礎講座」、基礎講座に続き同講座で取り上げなかった材料について解説を頂く「粉末冶金実用講座」を開催します。大学など「粉末冶金」と名のつく講座がなくなってきている折、粉末冶金を広く理解して頂ける講座にしたいと思えます。粉末冶金講座については、次回2月号の本会記事で詳しくご案内します。

協会誌「粉体および粉末冶金」については、論文投稿数が減少傾向にあります。昨今会社の方は投稿しても業績にならない、研究所の方は企業と共同研究するにあたっては論文を書き辛いなどの声を伺います。例えば特許を取られた後の技術を後世に残す意味においても論文として残して頂き、できる限りの情報公開をして頂ければ、粉末冶金業界としても技術継承のうえで大切なことであると思えます。また、学界においては英文誌への論文投稿が重視されておりますが、日本語論文での情報発信も重要であると思えます。以前より紹介していますが、当協会誌に掲載された日本語論文を、当協会を通じ共同刊行誌Materials Transactionsに内容を変えず英語に翻訳した英語論文として掲載することが可能です。まずは、日本語で正しく情報を伝え、続いて英語で世界へ発信して頂ければと思えます。

当会の主たる行事の春季大会は6月4日(火)～6日(木)、東京工業大学すずかけ台キャンパスにて、秋季大会は10月22日(火)～24日(木)、名古屋大学豊田講堂において開催します。その他当会関係の国際会議では、APMA2019(第5回アジア粉末冶金国際会議)が2月18日(月)～21日(木)にインドPuneにおいて行われます。また、ICF12(第12回国際フェライト会議)が本年10月7日(月)～10日(木)に米国ボストンにおいて開催されます。ICF11が2013年沖縄で開催されて以来、漸く開催が決まりました。春季大会ならびにAPMA2019については、すでに案内をお送りしていますが、ICF12ならびにその他行事についても逐次ホームページ、メール配信にて情報をお届けする予定ですので、沢山の方のご参加を希望します。

最後になりましたが、新しい年の始まりに併せて、本年1月より事務局のメンバーが新たに1名加わりました。また大会等でお目に掛かることがあるかと思えますが、よろしく願います。

皆様の今年一年のご健勝とご清栄をお祈り申し上げます。

(井上羊子)